

森林塾通信

第3回森林塾報告 テーマ「樹木分類」 『付き合い初めは名前、顔』

初対面の人とはまず「始めまして」と自己紹介。でも樹木の場合は名前を覚えてくれないので誰かに聞くか、調べなくてはなりません。近くに詳しい人がいれば聞くのが一番手っ取り早い。しかしこれはもう一方の耳から出て行くのも早く、なかなか残らないものです。

そこで検索。単葉か複葉か、葉脈はどのようかと分類のキーをいくつも覚えなくてはならないので、最初はとっつきにくいのですが、樹木と付き合うオーソドックスな方法ではあると思います。

そんなウジャコい事はとてもともという方は、枝葉を採集してきて誰かに聞くしかありません。昆虫や草本の場合でも同じですが、こういった場所にあつたか(いたか)という事が同定のポイントになる場合が多いので、そういった情報も伝えることが必要です。

一度覚えた名前を忘れないようにするには、じつと見つけて脳裏に焼き付ける、触つて感触を確かめる、特徴をメモる、スケッチをしておく、



イントラ宮崎は森林インストラクター、林業技能作業士、林業改良指導員と多才、独身

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路



「ヒノキやスギの人工林の中にモクリなどの有用広葉樹が生えている場合もあり、時にそれらを残すのも一つの施策法です」とは島崎先生がいっつもおっしゃることです。何十年も前のようにどんな

花の大きさと香りははんぱじゃないホオノキ



3人で姦しく検索。サクラの同定は難しい



ここまで丁寧につくった標本はもう宝物

木でも道具にしたたり、薬にしたり、食料にしたり、燃料にしたりと利用することはなくなつてき

ました。

でもたとえ人間にとつてなんの役に立ちそうもない樹木で、それを除伐する場合であつても名前や特徴を知っている、それが山造りにかかわるうとする者のマナーかなとも思います。

今回の内容

第3回 5月26日(土) 樹木分類

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。先生方のあい



「ツクバナは雌雄異株。これには雄花がついています」

8時50分

イントラ宮崎による樹木の検索の説明開始。ホオの葉っぱで練習してみました。続いて坂野の植物標本の作り方の説明。イントラ川島の作った標本が披露されて「見かけによらず彼は几帳面なのだ」と一同感心。

9時20分

五班に分かれて小屋西側で検索の練習。なんと石原班には藤野さん藤本さんと、合わせて三人の森林インストラクターの豪華揃い踏みとなりました。

小屋西側の元アカマツ林は市有地で、島崎山林研修所の面々が伐出を担当。先生の発案でクリヤヤマザクラ、ハリギリなどを重点的に残し、見て楽しいし実もなるし、将来は有用材も期待できるとい

ウツギ
その名の通り材は中空ですが見かけによらずとても堅く、木工家具の木釘に使われた。また古代人はヒノキと擦って火熾しに使ったらしい。ちなみに森林塾の縄文さん(村谷さん)はノリウツギとスギの板を使っています。

クロモジ
芳香があるので小枝は和菓子用の楊枝にするのはおそろしく存知のところ。昔伊那谷では水蒸気蒸留してクロモジ油を作り、香水の原料として出荷したそうです。

OBの「たまねぎ」金森さんは焼酎に漬け込みクロモジ酒に。

リョウブ
「伊那椿」という名でこの炭を出荷し、好評だったという事です。イントラ中村にもドラムカンで焼いてもらいましたが、確かにいい炭でした。

戦後、食糧難の時に増量材としてご飯に炊き込んだりしたので、リョウブをみると悲しくなるといふ年配の方もいるらしい。キュウリやトマトなどの野菜の手や稲刈り後のハザ棒には今でも利用されています。



リレー通信

『なぜ、どのように』を語れる場
松本 誠



こんにちは、大阪の堺市から参加させてもらっている松本です。リレー通信を仰せつかり、一体なにを書いたものかと戦々恐々です。というのも自分自身の中にはまだ山の仕事に対する確固たるものがないからです。翻って言えば今回私がコア森林塾に参加をさせていただいた理由もここにありと言えます。

のを掴むことができず、逆に回を重ねることに疑問のほうが多くなり、その疑問に答えてもらえる場所が欲しかったわけです。
私のような都会暮らしの人間にとつては、日常的に身近な「やま」というのは市の中の公園にある雑木林ですし、特に関東平野で学齢期を過ごした私にとつての「やま」「武蔵野の平坦な雑木林」であつたわけで、里山が「やま」の原風景として脳裏に刻み込まれていて、里山保全の活動には割合すんなり入つていきました。雪をいただく尾根を持ついわゆる「山」は日常生活からかけ離れていて、ましてやそこの作業はプロの領域で、非常に近寄り難いという思いがありました。

けれど、里山活動の領域(勿論どこまでを里山というのか)という議論はあると思いますが(は案外限られていて、もっといろんなことを体験してみたいという思いもあり、一昨年、台風で被害を受けた大阪近郊の山中での森林の風倒木除去作業のボランティアの募集を新聞で見つけ「なにか手伝いができるのな

ら」とおそろおそろ応募しました。
このときに作業についての十分な説明を受けられず、訳も分からず作業に入り、何も分らないまま一日が終わつてしまいました。一方、今までの里山作業にはなかったスケールというか奥深さを感じ、もっとこういつた作業に関わつてみたいと思い、森林ボランティアの募集を探しては参加する様になりました。

けれどほとんどの所では「この山をどういうふうにしよ」としているのか、「なぜ今この山の手入れが必要なのか」「なぜこの木を切るのか」から「この木を切る際にはどちらに倒すべきか」「切った木の処理はどうするのか」等々のことを教えてもらえる場・語れる場がありませんでした。ただその日をお客さまの状態で過ごすのは苦痛なもので、「何も知らない・分からない自分のような存在が関わることにはかえって山に悪い影響を与える可能性もあり、問題だなあ」という思いがずっと付いて回っていました。
それでも懲りもせずいろいろな機会を探しては参加をしたのは、森林のなかでの作業をするのも何ともいえぬ爽快感という楽しさがあったからです。しかし、疑問については解決されず蓄積されていくばかりで、何とか基本からきちんとならせてもらえる場はないものか、という思いは募るばかりでした。
そんな中昨年、連れ合いがテレビで放映された島崎先生の活動を偶然ビデオに収めており、コア森林塾を知り「ああこうだったところもあるのか、ここならいろいろ教えてもらえる」と思い、著書の『山造り承ります』を探し取り寄せて読んでみて思いを強め、通うことが可能かどうかを検討し、結局Bコース(夏の合宿)を選択して連れ合いとともに参加させていただきました。

ここには、北は北海道から南は徳島までのいるいるな地域、森林労働者から学生さん、各地で森作りに関わっている方、関わりつとすると、様々な方々が参加されており、しかも各々の参加者がハッキリとした問題意識を持たれており感心するばかりでしたし、合宿生活ということでは皆さんと語り合う場が持たことで、非常に勉強になり、触発され、得ることがたくさんありました。
勿論、このわずかな時間で今までのすべての疑問が解決した訳ではありませんが、その後の里山保全の活動なり、森林でのボランティアの活動の際には、気持ちにも多少のゆとりを持って参加できるようになりました。そういった意味で昨年は自分にとつては非常に意義の多い年でした。合宿時に島崎先生にサインしていただいた著書の『山造り承ります』と保科先生からいただいたフリ縄用のトネリコの木は私の宝物になりました。

年々変わり、年間予定表があちこちのグループから送られてきて、今年の予定をどうしようかと考えているうちに、昨夏の楽しかった一時期が思い出され、一年だけでは無理があるけど二年計画だったら森林塾に通えるかなーと漏らした言葉に「やってみたら」と連れ合いから快く了解を得、職場にもなんとか事情を話し、今年一年は森林塾を中心にしてゆくことに決めました。
大阪からは四百km弱、遠いと言えば確かに遠いけれど、島崎先生の小屋に前夜一泊をお願いすれば、いろんな方の話を聞くことができるし、塾の終了後一泊の帰り道、朝早くの峠越えで思わぬ動物に出会うこともあり、楽しいこと多い距離でもあります。
なにはともあれ一年間皆さんの足手まといにならぬよう、自分のペースで頑張りたいと思っていますのでよろしくお願ひいたします。





リレー通信

つれづれリレー通信 長坂 久仁子

五月十七日(木)

買物から帰ってポストを覗くと森林塾通信第二号が届いていた。第一号がともいい感じだったので、わくわくしながら封を開けると、通信と一緒に次回のリレー通信の原稿依頼のメモが入っていた。うひゃー、もう私の番まわってきたやつなのか、まいったな。第一号でこういうコーナーがあつて、いつか自分も何かしら書かなくてはならないとわかり、できるだけ後の方がいいなと思っていた矢先のことだ。気を取り直して第

二号の通信を読む。ますます落ち込む。んー、山仕事超素人の私に何が書けるだろう。...

五月十九日(土)

昨日一日この原稿の題材となりそうな事柄をいろいろ考えてみた。考えれば考えるほど素となる自分がいかにからっぽな人間であるか思い知らされ、どんどん落ちていく。ペンを取ってみたものの先へは進まずあきらめる。

五月二十二日(火)

考えがまとまらぬまま二日も過ぎてしまった。×切も近づく。外は久々の雨、今日は原稿書き日和?きちんと考えがまとまったわけではないが、こんな自分がこの森林塾にたどり着いた道のりでも書いてみよう。

今年の九月で伊那市へ来て一年になる。伊那へ来る前は横浜に八年半。都会生活には不慣れだった私だが、幸いにも通勤(痛動)電車に乗る必要もなく、住環境にも恵まれて



いたので横浜での生活は嫌いだ。はなかつた。でも一生活む所ではないという思いがあり、再スタートの地を探した。山歩きを始めて知った山の中にいる気持ちよ

さから、山関連の仕事に気をひかれ、実家のある愛知にこそ近いということで南信に注目。二年前の六月、松本市で開かれた林業関連の共同製材会社を訪問。伐採現場と工場を見学させてもらった。信州そばも馳走になった。しかし、漠然と山で仕事ができたらいいなという甘い気持ち、現実の厳しさに打ち負かされ、結果としては林業関連への転職を考え直す方向へ向かうこととなった。

その後しばらくは転職どころではなかったが、一年後の六月に機会があつて転職先を探した結果、再び伊那市を訪れることになった。すんなりと決めたわけではないが、きつと伊那には縁があるのだらうというこに、伊那という地名も、街中で愛想を振りまく「ナちゃんのかわいさも気に入つて、八月の暑い中、伊那へやってきた。

はー、やっとここまで書けた。雨も小降りになつてきたので買い物でも行つてこよう。今日はここまで。注:実際に転職したのは夫です。

五月二十四日(木)

一昨日からの雨がようやくあがつて青空が見えてきた。山には手を伸ばせば届きそうな低い所まで雲がかかっている。というか山から雲が湧き出ているという感じ。じわじ

わと動く雲を見ていると時間だけが進み、原稿は進まない。

伊那へは定住するつもりでやってきたので、持ち家のことを考え始め、参考にしたりする本を読んでいた。その中に森林塾に関する記述があつた。伊那でこういうことをしている所があるのか、と忘れかけていた山仕事への興味が再び顔を覗かせた。それから約三ヶ月、伊那には雪が降らずん降つた。あまり雪は降らないと聞いていたので、初めのうちはさすがに横浜よりはよく降るな、と思つていたのだが、そのうち雪が当たり前の景色になつて

いた。その雪もよつやく無くなつてきて、そろそろ家の外の世界にも足を踏み出さなくてはと思い始めていた頃、森林塾のホームページを発見。申込×切の三日前からいだった。これはまた何かの縁と、深く考えることも無く応募したが結果は抽選はずれ。んー、縁は無かつたかと少し沈んでいた所へキャンセル補充の電話があつた。補充ということ

で近くに住んでいる人からということだった。やっぱり縁があつたのかな? こないきさつて皆さんと出会うことになつたので

す。正直、オリエンテーションで皆さんの話を聞いて、森林塾にかける意気込みの強さにひるんでしまった私ですが、私にとつて森林塾は、これからこの伊那という地に足をつけて生きていくための第一歩であると思つています。この先山仕事に関われるかどうかはわかりませんが、細く長く...と望んでいます。どうぞよろしくお祈いします。

コラム

香り立つそよ風を運ぶ春の西風の使者、花をまとつた翼を持つギリシヤ青年神ゼフュロス。

この神の名を語源とし、そよ風の妖精と呼ばれる一群の蝶ゼフィルス。

日本に二十五種が棲息するこれらの蝶は、主にナラ・クヌギ・カシワ・ハンノキ・アカガシなどの梢を棲息域とし、早朝・夕方に活発な占有行動をとる種が多い。

六月上旬から八月上旬にかけて、伊那谷でも、グリーンメタリックやオレンジなどの鱗粉を身に纏つた、小さく華麗なゼフィルス達に出会えるかもしれない。

(Luehdorfia)

あわりに

いよいよ次回は伐木造材。森林塾も佳境に入ってきました。7月になると、した草刈

り、間伐とハードな実践が目白押しです。間伐の後(今年は20日の夕方)の夕方は毎年暑気払いをやっています。今年もやりましょうかねえ。みんなでジックリ話をする機会もなかなかもてませんし。さて話は変わりますが、KOA株式会社株主総会が6月9日(土)にKOAパインパークで開かれます。それに引き続き地域社会報告会、感謝祭という流れのイベントとなります。

感謝祭の屋台、催し物は12時10分にオープンです。炉端焼きや野草料理、ローメンや五平もち、飲み物等すべて無料ですので都合に合わせて顔をお出しく下さい。森林塾関係者は木工教室あたりにいると思しますので声を掛けてください。

そうそう、お配りした住所録に間違いがありました。訂正して下さい。藤本智さんのメールアドレス s.tujinoを s.tujinoに訂正してください。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)
H.P.http://www.koanet.co.jp

